

# 土肥美帆写真展 北に生きる猫

みんなケンジを好きになる

2022年

1月22日  ~ 5月8日 



市立小樽美術館  
otaru city museum of art

開館時間 9:30~17:00(最終入館16:30) 休館日 月曜日(3月21日を除く)、2月15日、2月24日、3月22日-23日、5月2日、5月6日

観覧料 一般 500(400)円、高校生・市内高齢者 250(200)円、障がい者・中学生以下無料 \* ( )内は20名様以上の団体料金

主催 市立小樽美術館、市立小樽美術館協力会

後援 あとりえ・クレール、海辺のアート・スペース sunaie、小樽観光協会、小樽シゴトガイド、小樽ジャーナル、小樽人、籠と猫 土の音・つちのね、株式会社河出書房新社  
札幌圏スロヴァキアオペラ実行委員会、一般社団法人猫の足あと、北海道学校図書館協会、北海道新聞小樽支社、みんなん舎(五十音順)

# 土肥美帆写真展 北に生きる猫

北海道出身、滋賀県在住の写真家・土肥美帆さんが小樽で猫を撮り始めたのは2014年の春のこと。海岸線を歩きながらまどろむ猫たちをカメラに収めました。厳しい冬が訪れると、好奇心より心配が先に立ちましたが、そこには脂肪を備え冬毛で丸くなった猫たちがいました。彼らを見守る漁師さんにも出会いました。厳しい自然に対峙し、懸命に生きる姿に心を奪われてしまった土肥さん。それ以降、小樽に通い、人と繋がりながら猫を撮りつづけています。

近ごろ話題となっているのは漁師の子、ビッグフェイスキャット・ケンジです。Instagramで日々更新される彼を取り巻くハートフルな出来事が人びとの心を魅了し、フォロワー数は4.8万人！雑誌「猫びより」でも特集されるなど、多くの人に愛され、癒しと元気を与えています。

小樽の猫たちを撮った作品は、日本写真家協会主催 2016JPS 展の文部科学大臣賞、2017年ニッコールフォトコンテストの大賞、2015・16年の岩合光昭ネコ写真コンテストではグランプリ連覇するなど、多くの賞を受賞しています。2018年に刊行された写真集「北に生きる猫」(河出書房新社)の帯にある動物写真家・岩合光昭さんの推薦文にはこうあります。「ネコを写真として見られる絵にするのは難しい。土肥美帆さんは見事にそれを成し遂げている」。

芸術性が高く評価され、人びとの心を動かす作品が、小樽で生まれていることを多くの方に知ってほしいと思い、本展を企画しました。作品を見た後には、皆さんの心がほっこりし、猫たちに一層あたたかい眼差しが向けられることを願っています。(本展コーディネーター 杉本真沙彌)

## 第1章「北に生きる猫たち」



## 第2章「ボス猫ケンジ」



### 土肥美帆 Miho Doi

北海道生まれ、滋賀県草津市在住。2014年より北海道・小樽で生きる猫たちの姿を撮り続けている。2016年JPS展 文部科学大臣賞。2017年ニッコールフォトコンテスト 大賞(モノクロームの部)。2015、16年 岩合光昭ネコ写真コンテスト グランプリ。2016、17年 滋賀県写真展覧会 芸術文化大賞。2015、17年 京都現代写真作家展 琳派400年記念賞 準大賞。2018年写真集「北に生きる猫」(河出書房新社)を出版。2019年大阪二コングャラリーにて個展「北緯43度」を開催。



●● ギャラリートーク ●● 申し込み・お問い合わせ 市立小樽美術館 0134-34-0035

**2/6(日) 14:00~** 写真家・土肥美帆×杉本真沙彌(本展コーディネーター、編集者)  
会場:2階企画展示室(要観覧料)  
定員:30名(事前予約制)  
申込:電話による申込み(1月4日(火)~受付開始)

**4/29(金・祝) 14:00~** 写真家・土肥美帆×加藤重男(みんな舎代表、河出書房新社北海道地区コーディネーター)  
会場:2階企画展示室(要観覧料)  
定員:30名(事前予約制)  
申込:電話による申込み(4月2日(土)~受付開始)



JR函館本線		小樽駅
●小樽経済センター		
●産業会館	長崎屋	●サンビルスクエア
都通り		
●オーセントホテル小樽		
旧手宮線		
金融資料館(旧日本銀行)	●市立小樽美術館	
●郵便局本局		
●ニトリ美術館		
小樽運河		



市立小樽美術館  
otaru city museum of art

〒047-0031 小樽市色内1-9-5  
Tel:0134-34-0035 Fax:0134-32-2388